

【別添】

飯山市第6次総合計画

基本構想

(素案)

令和4年12月

飯 山 市

目次

第1章 序論	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の期間と構成	1
3 飯山市を取り巻く社会の潮流	2
(1) 人口減少・少子高齢化	2
(2) SDGsの推進	2
(3) 新型コロナウイルス感染症の影響による社会構造の変化	2
(4) 社会全体のデジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進	2
(5) 気候変動に対する意識と自然災害の甚大化	2
(6) ダイバーシティ社会の実現	3
(7) エネルギーと食料の安定供給	3
4 飯山市の現状	4
(1) 第5次総合計画の総括（概要）	4
(2) 飯山市の人口動態	6
(3) 産業	8
(4) 市民のニーズ	11
5 飯山市の課題	14
(1) 自然環境・移住定住・観光交流・新たな価値の創出	14
(2) 子育て・教育	14
(3) 地域産業・雇用	14
(4) 市民協働・生きがい・文化	15
(5) 公共交通・医療・福祉・インフラ・防災・行財政	15
6 第6次総合計画の方向性	17
第2章 基本構想	18
1 将来のまちの姿	18
2 基本目標	19
3 基本目標毎の取組	20
資料	25
用語集	25

第1章 序論

1 計画策定の趣旨

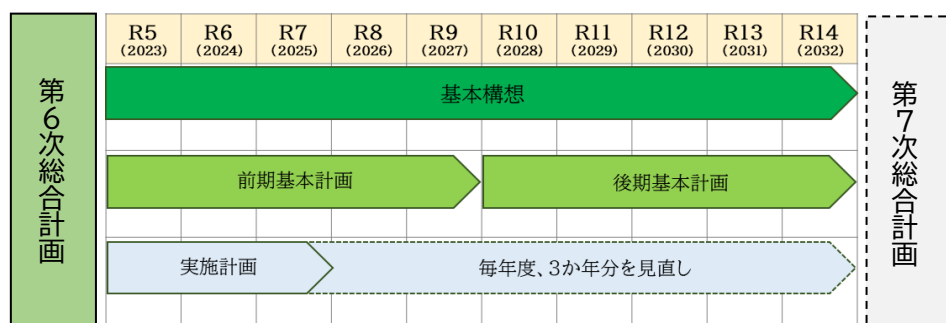
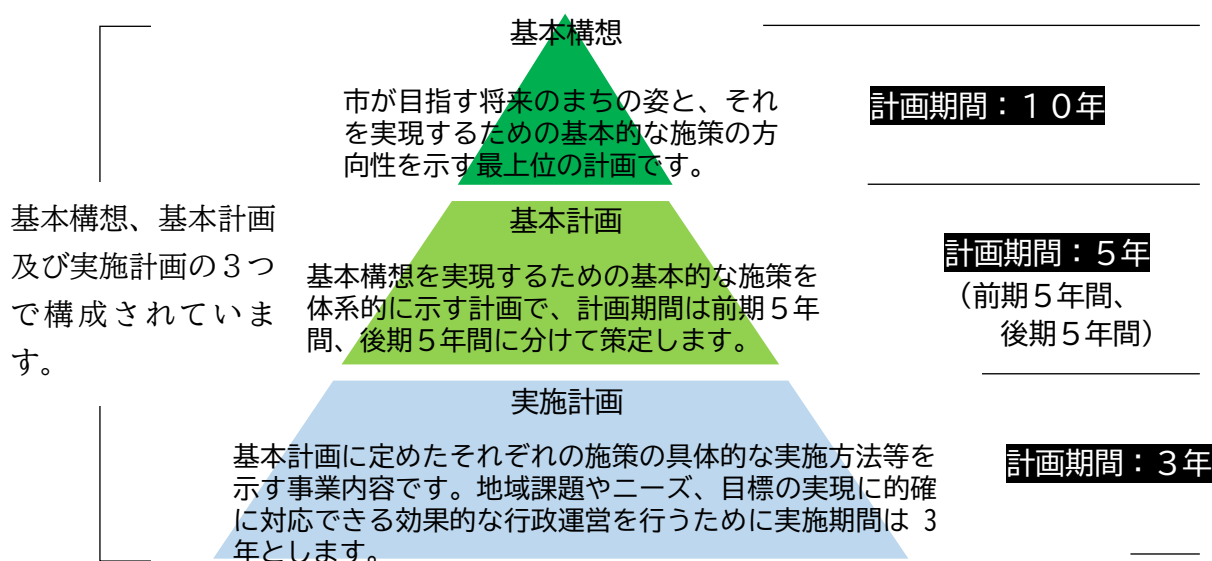
総合計画は、飯山市が目指す10年後の将来のまちの姿を描き、その実現に向けた方向性や目標を示したまちづくりの基本方針となる市の最上位に位置付けられる計画です。

本市では、平成25年に飯山市第5次総合計画を策定し、将来のまちの姿を「自然と共生する豊かな暮らし『技と縁のまち 飯山』」を掲げ、まちづくりを進めてまいりました。同計画の策定から10年が経過し、人口減少・少子高齢化の進行、新型コロナウイルス感染症のまん延による人々のライフスタイルの多様化及びデジタル技術の急速な進化など、飯山市を取り巻く状況は大きく変化しています。

このような時代の変化に対応して、市民、事業者、各種団体、行政などまちづくりに関わる全ての担い手が、将来のまちの姿の実現に向けて、協働で取組を進めていけるよう、第6次総合計画を策定します。

2 計画の期間と構成

計画期間は、令和5（2023）年度～令和14（2032）年度です。



3 飯山市を取り巻く社会の潮流

(1) 人口減少・少子高齢化

日本全体の人口減少・少子高齢化が進むなか、国立社会保障・人口問題研究所の「将来推計人口」によると、将来の人口は2025年には1億2,114万人、2050年にはおよそ1億60万人になると予測されています。また、人口の年齢構成も少子高齢化によって大きく変わり、年少人口（0～14歳）が総人口に占める割合が低下するだけでなく、生産年齢人口（15歳～64歳）が総人口に占める割合も低下していくことが見込まれます。

2000年時点の生産年齢人口は8,622万人で、総人口に占める割合は68.1%となっていますが、これが2050年にはそれぞれ、5,389万人、53.6%にまで低下することが見込まれています。生産年齢人口の減少は、労働力の減少により経済成長の制約となり、総人口に占める生産年齢人口の割合の低下は、支え手の減少を通じ、社会保障制度の基盤を不安定なものにすることが懸念されています。

(2) SDGsの推進

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された「国際社会における2030年までの開発目標」です。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための取組が求められています。

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響による社会構造の変化

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、「都市集中型社会」から「地域分散型社会」への変化により、地方暮らしに関心が高まっています。

感染防止策として、「密集、密接、密閉（三密）」を避けるため、働き方や経済活動・地域活動のあり方の見直しが進んでいます。

(4) 社会全体のデジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進

デジタル技術の急速な進化や、データの多様化・大容量化が進展し、その活用が不可欠となりました。また、新型コロナウイルス感染症の対応において、地域・組織間で横断的にデータが十分に活用できないことなど様々な問題が明らかとなったことから、こうしたデジタル化の遅れに対して迅速に対処するとともに、「新たな日常」の原動力として、制度や組織の在り方等をデジタル化に合わせて変革していく、言わば社会全体のデジタル・トランスフォーメーション（DX）が求められています。

(5) 気候変動に対する意識と自然災害の甚大化

「気候危機」とも言われる地球温暖化が進むなか、その影響の一つとして自然災害の甚大化が考えられています。今後、温室効果ガスの排出量削減に向けた、環境配慮行動や省エネルギー機器の導入などの従来の緩和策に加え、防災対策や熱中症対策などの適応策も講じる必要があります。

国は「2050年カーボンニュートラル」を宣言しており、達成に向けて再生可能エネルギーの活用等脱炭素社会の実現に向けた取組が求められています。

（６）ダイバーシティ社会の実現

持続可能な地域社会を実現するためには、年齢や性別、国籍、人種、障がいの有無、性的指向・性自認等にかかわらず、一人ひとりが尊重され、誰もが個々の能力を発揮することができ、多様性が受容されるダイバーシティ社会を実現していく必要があります。

（７）エネルギーと食料の安定供給

エネルギーについては、石油などの限られた化石燃料に依存しすぎることなく、安全性と環境に配慮した再生可能エネルギーの導入による自給自足の取組などでエネルギーの安定供給を図る必要があります。

また、世界の食糧需給の長期的なひっ迫が懸念されるなか、新型コロナウイルス感染症の拡大や、ロシアのウクライナ侵攻等により輸入国間の競合等の懸念が生じており、食料の安定した供給や自給率の向上が重要となっています。

4 飯山市の現状

(1) 第5次総合計画の総括（概要）

後期基本計画に掲げた4つの重点目標ごとにまとめました。

【仕事と子育てのまるごと応援で若者が住みたくなるまちづくり】

若者世代に向けた移住・定住促進に関する支援やきめ細かな相談体制により、30代の若者世代を中心に移住者は増加傾向で、令和3年度の移住者は過去最高の174人となりました。

若者の起業支援に関する取組では、「起業支援補助事業」により、平成26年から令和3年度まで41件の起業を支援しました。

子どもを安心して育てられる環境づくりのため、福祉医療費の給付対象を18歳まで拡充しました。また、第3子以降の保育料無料化（令和元年10月からは国の制度により「3歳以上保育料無償」）に加えて、満1歳からの保育、保育時間の延長、土曜日保育・休日保育、副食費の無料化を実施したほか、保育料の階層区分を細分化し、保護者の負担軽減を図りました。また、子育て支援の拠点施設として飯山市子ども館「きらら」を整備し、子育てに関する総合的な支援を進めました。



【自然環境と高速交通網を活用した産業を育成するまちづくり】

平成27年春の北陸新幹線飯山駅開業後、駅周辺には複数の新たな商業施設が進出するなど新たな賑わいが生まれたほか、賑わい創出拠点として、令和3年度に民間事業者との基本協定により市も支援するなかで、飯山駅前市有地にホテルの建設が決定しました。



道の駅「花の駅 千曲川」に、農産物直売所とレストラン等の機能を兼ね備えた農業観光振興拠点施設を整備し、飯山の「農産物」と地元の食材を活かした「食」の充実を図るとともに、アクティビティ拠点施設の建設にも着手し、総合的な道の駅とすることで、飯山市の魅力の発信と併せ、関係交流人口の増加に向けた取組を進めました。



【防災体制と医療介護体制の充実で親も子どもも安心できるまちづくり】

自然災害等に対する防災体制の強化、高齢者が安心して暮らせる環境整備に向け、新たにデジタル防災行政無線の整備を行うとともに、屋外スピーカーの設置やメール配信サービスなど情報伝達の多重化を図りました。

地域中核医療機関の機能充実に向けた支援を行うほか、医学生奨学金や医師研究資金の貸付を拡充することにより、飯山赤十字病院の勤務医不足に対して、医師招聘の推進を図りました。また、高齢者等世帯の屋根の雪下し等の費用に対する支援や緊急時避難路確保を目的とした除雪作業員による除雪支援や、地域の皆さんが取り組む除雪支援の活動への支援など雪国ならではの除雪に対する取組を行いました。



【ICT 教育と国際交流を通じて生きていく力と郷土愛を育成するまちづくり】

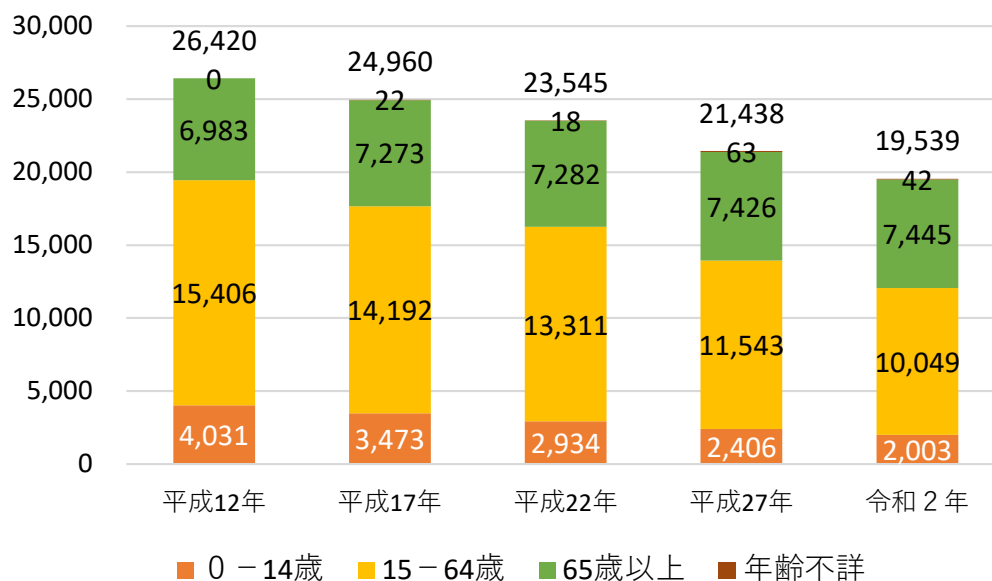
児童生徒の国際感覚及び英語コミュニケーション能力の向上を目指し、小・中学校への外国語指導助手の増員を行うほか、これからの時代に対応するため、STEM教育を導入し、プログラミング教育を進め、グローバルに活躍できる児童・生徒の育成を推進しました。

飯山の新たな学校の目指すべき姿と保育園のあり方や児童クラブ・児童センターなどの考え方を示した「飯山の新たな学校づくり計画」を策定し、令和7年度の開校に向けた城北中学校区の統合小学校整備に着手しました。



(2) 飯山市の人口動態

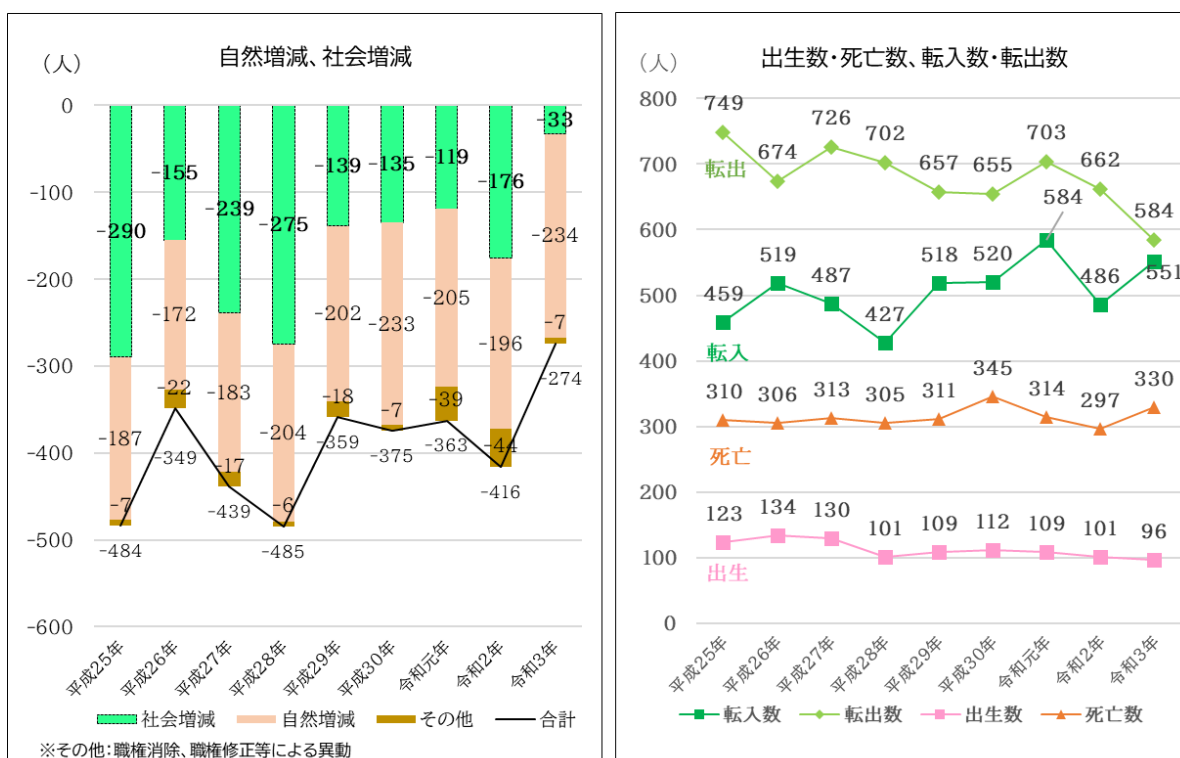
① 総人口、年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査

・総人口は減少傾向、65歳以上人口は増加傾向です。

② 自然増減・社会増減

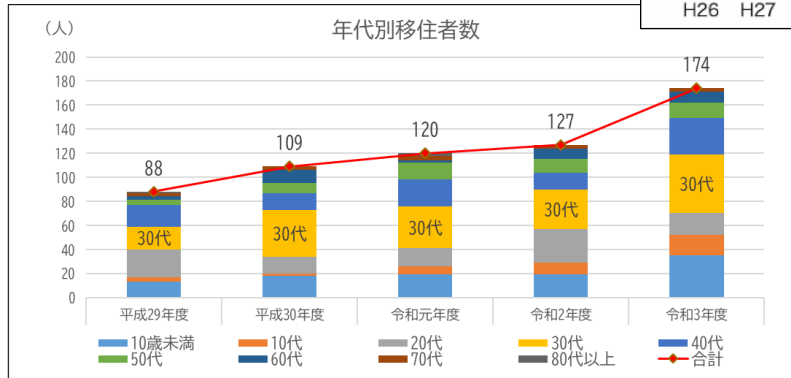
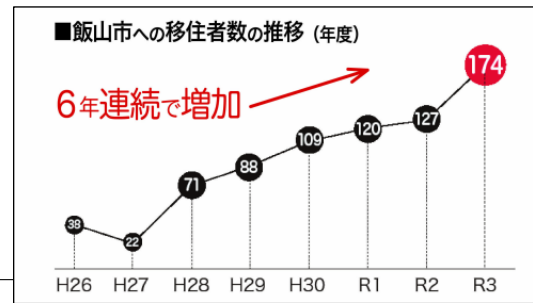


資料：市ホームページ「人口、世帯数（毎月人口異動調査結果に基づく推計人口）」再編加工
【注記】年次データ

- ・社会減は改善傾向です。
- ・出生数は、近年減少傾向です。

③ 近年の移住者数

住宅建設や通勤などの各種支援やきめ細かな相談体制により、30代の若者世代を中心に移住者は増加傾向で、令和3年度の移住者は過去最高の174人となり、社会減の改善につながりました。

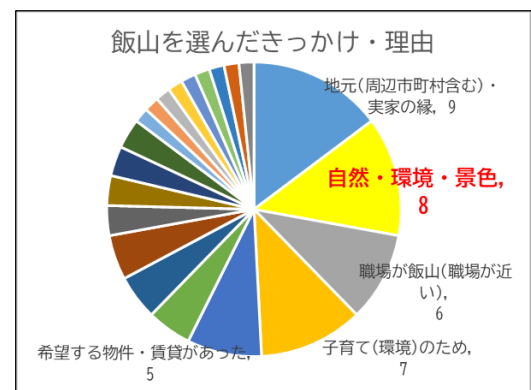


移住者アンケート調査

令和元年度から令和3年度までに移住し、移住等の補助金対象者、空き家バンクや移住定住促進住宅への居住者など市を介した移住者を対象に、移住時及び移住後の状況をアンケートにより調査しました。

【飯山を選んだきっかけ・理由】

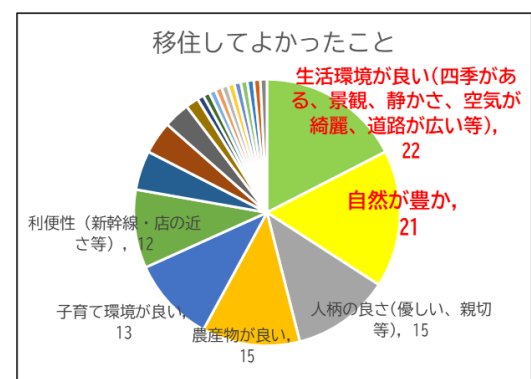
「地元だから」「実家が近いから」という理由が一番多く、次いで飯山の「自然・環境」を理由にした方が多い状況です。



回答 32 名 61 件（複数回答あり）※令和3年移住者のみ回答

【移住してよかったこと】

「生活環境の良さ」「自然の多さ」の回答が多く、関係性の高い「子育て環境の良さ」の回答と合わせると全体の50%近くになりました。これらは移住のきっかけや理由とつながり、移住後の満足度と関係していると考えられます。また飯山の「人柄の良さ」や「農産物・水」、「新幹線やスーパー等の距離などの利便性」を挙げている方も多く、これらも飯山の魅力の特徴であると言えます。

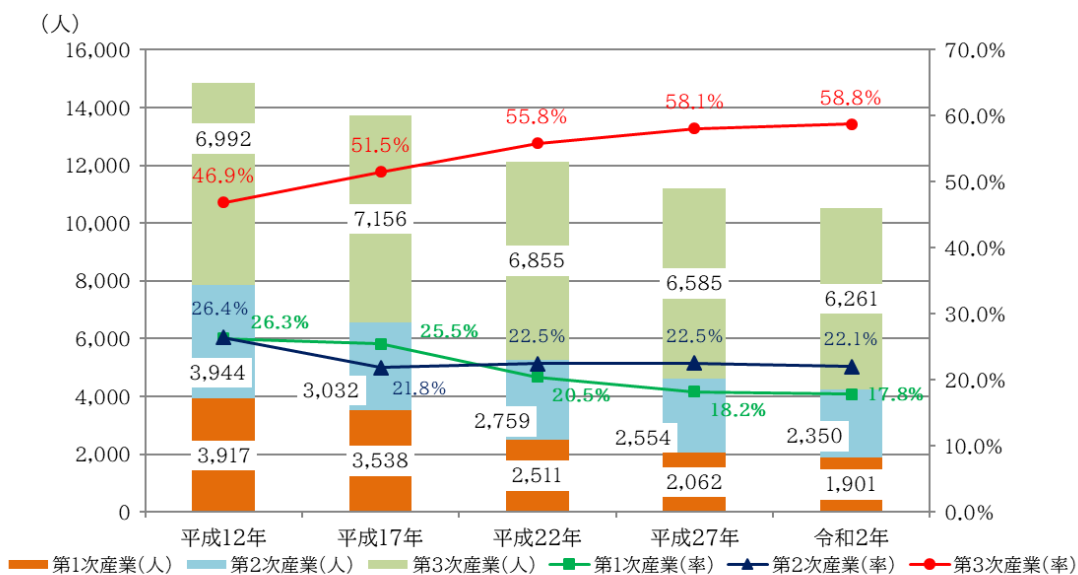


回答 62 名 126 件（複数回答あり）

・豊かな美しい自然環境と、この地に住む人々のひたむきな努力によって形づくられてきた里山が、選ばれる理由となっています。

(3) 産業

① 産業別就業者数・人口割合



- ・ どの産業分類の就業者数も減少しています。
- ・ 第3次産業の就業者割合が増加しています。

資料：国勢調査

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
第1次産業	3,917	3,538	2,511	2,062	1,901
農業	3,891	3,531	2,472	2,023	1,862
林業	23	7	39	39	38
漁業	3	-	-	-	1
第2次産業	3,944	3,032	2,759	2,554	2,350
鉱業、採石業、砂利採取業	3	4	6	10	3
建設業	1,923	1,529	1,210	1,118	1,033
製造業	2,018	1,499	1,543	1,426	1,314
第3次産業	6,992	7,156	6,855	6,585	6,261
電気・ガス・熱供給・水道事業	47	45	45	38	42
運輸・通信業	619	531	-	-	-
情報通信業	-	-	89	91	94
運輸業、郵便業	-	-	535	458	397
卸売・小売業・飲食店	2,242	1,969	-	-	-
卸売業、小売業	-	-	1714	1,554	1,481
金融業、保険業	138	136	111	95	88
不動産業	25	29	-	-	-
不動産業、物品賃貸業	-	-	61	61	57
サービス業	3,423	3,982	-	-	-
学術研究、専門・技術サービス	-	-	187	175	177
宿泊業、飲食サービス業	-	-	733	710	645
生活関連サービス業、娯楽業	-	-	372	342	343
教育、学習支援業	-	-	431	385	393
医療、福祉	-	-	1348	1,413	1,435
複合サービス業	-	-	307	330	249
サービス業(他に分類されないもの)	-	-	515	473	465
公務(他に分類されないもの)	498	464	-	-	-
公務(他に分類されるものを除く)	-	-	407	460	395
分類不能の産業	68	158	150	137	142
計	14,921	13,884	12,275	11,338	10,654

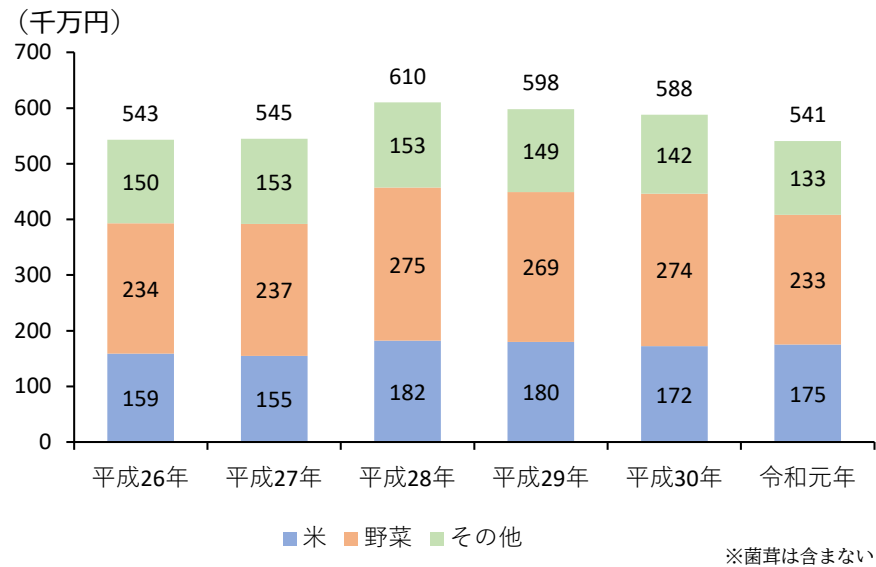
※総数には、分類不能の産業を含む。

※平成19年から日本標準産業分類が変更されている。

資料：国勢調査

- ・ 令和2年の第1次産業の就業者数は平成12年の約半数となっています。
- ・ 第3次産業の就業者数では、情報通信業、医療・福祉が増加傾向です。

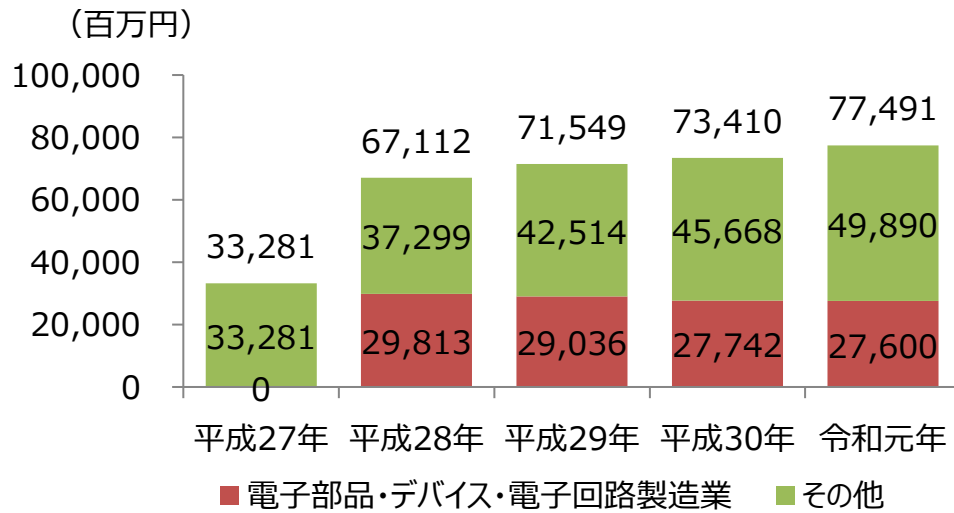
② 農業産出額



資料：農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

- ・野菜と米で産出額の7割以上を占めています。

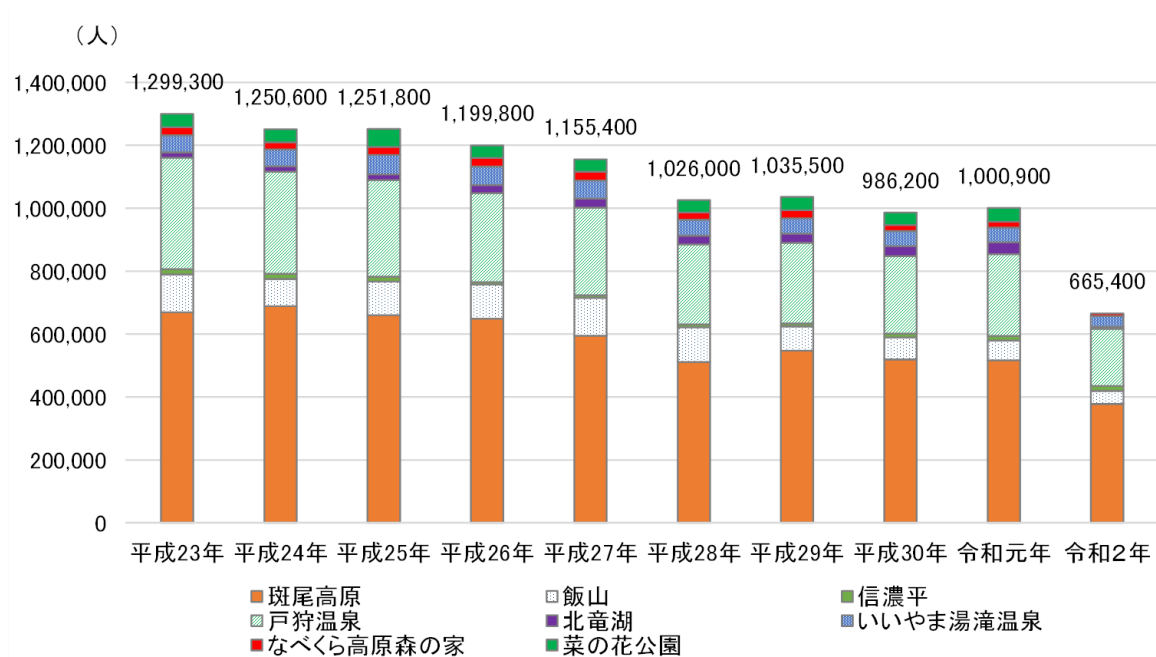
③ 製造品出荷額等



資料：経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

- ・製造品出荷額等は増加傾向です。
- ・令和元年では、電子部品・デバイス・電子回路製造業が全体の約36%を占めます。

④ 観光地別観光客・利用者数



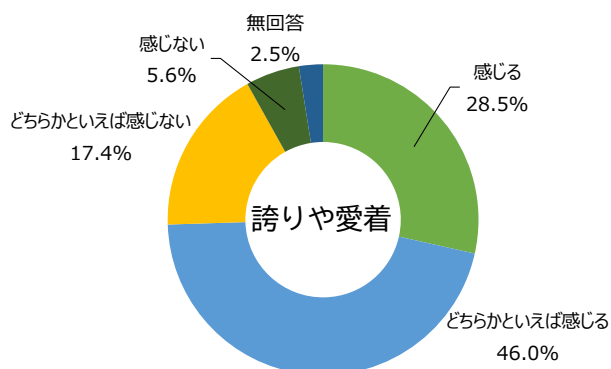
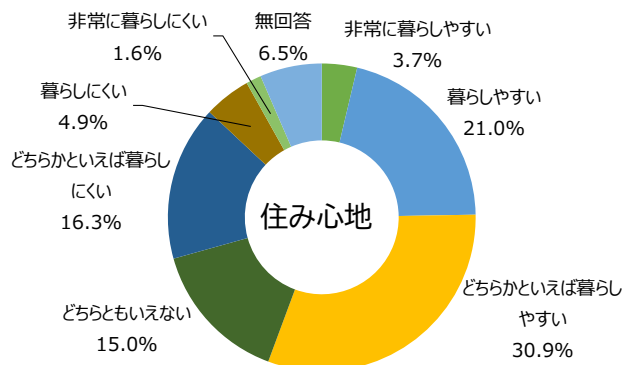
資料：商工観光課資料

- ・斑尾高原が全体の約半数を占め、経年変化では概ね減少傾向にあります。
- ・令和2年は、新型コロナウイルスの影響により大幅に減少しました。

(4) 市民のニーズ

① まちづくり市民アンケート調査 (1,338 人の回答)

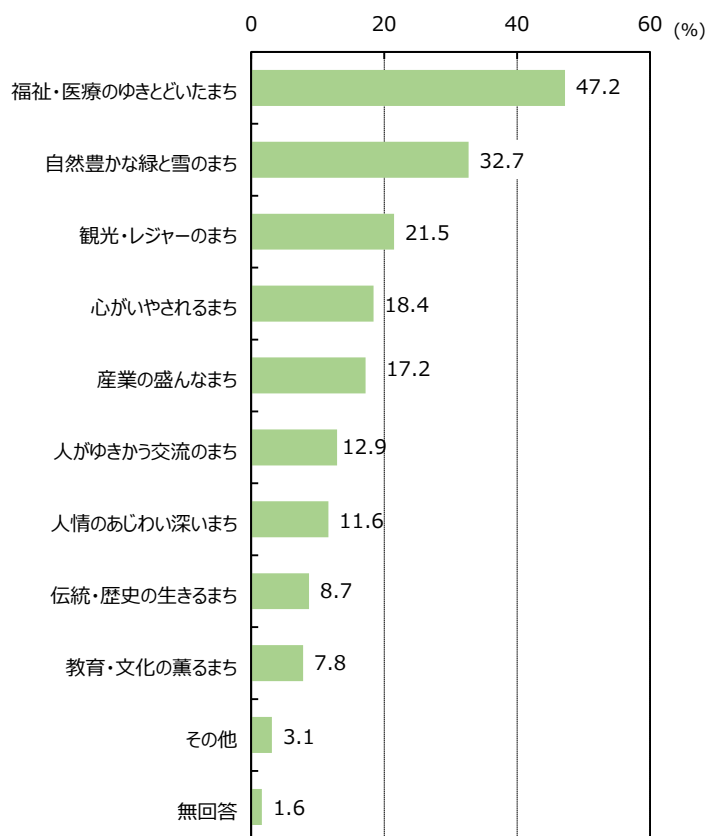
【住み心地・誇りや愛着】



・暮らしやすいと感じる人は合わせて約 56% です。なお、暮らしにくいと感じる人は合わせて約 23% です。

・誇りや愛着を感じる人は約 75% です。なお、誇りや愛着を感じない人は 23% です。

【将来のありたい姿】



・過去 2 回の調査と同様、福祉・医療や自然を重視する意見が多い状況です。

・観光・レジャーを重視する意見も比較的多く見られます。

【生活環境の満足度と重要度】

生活環境に対する市民の満足度・重要度については、満足度・重要度の以下の各段階に得点を付与し、それぞれの得点に回答者の割合（選択肢「わからない」と無回答を除いた数を基に計算）を乗じ、その和をそれぞれの項目の点数とします。

- ・満足度→満足：10点 やや満足：5点 やや不満：－5点 不満：－10点
- ・重要度→重要：10点 やや重要：5点 あまり重要ではない：－5点 重要ではない：－10点

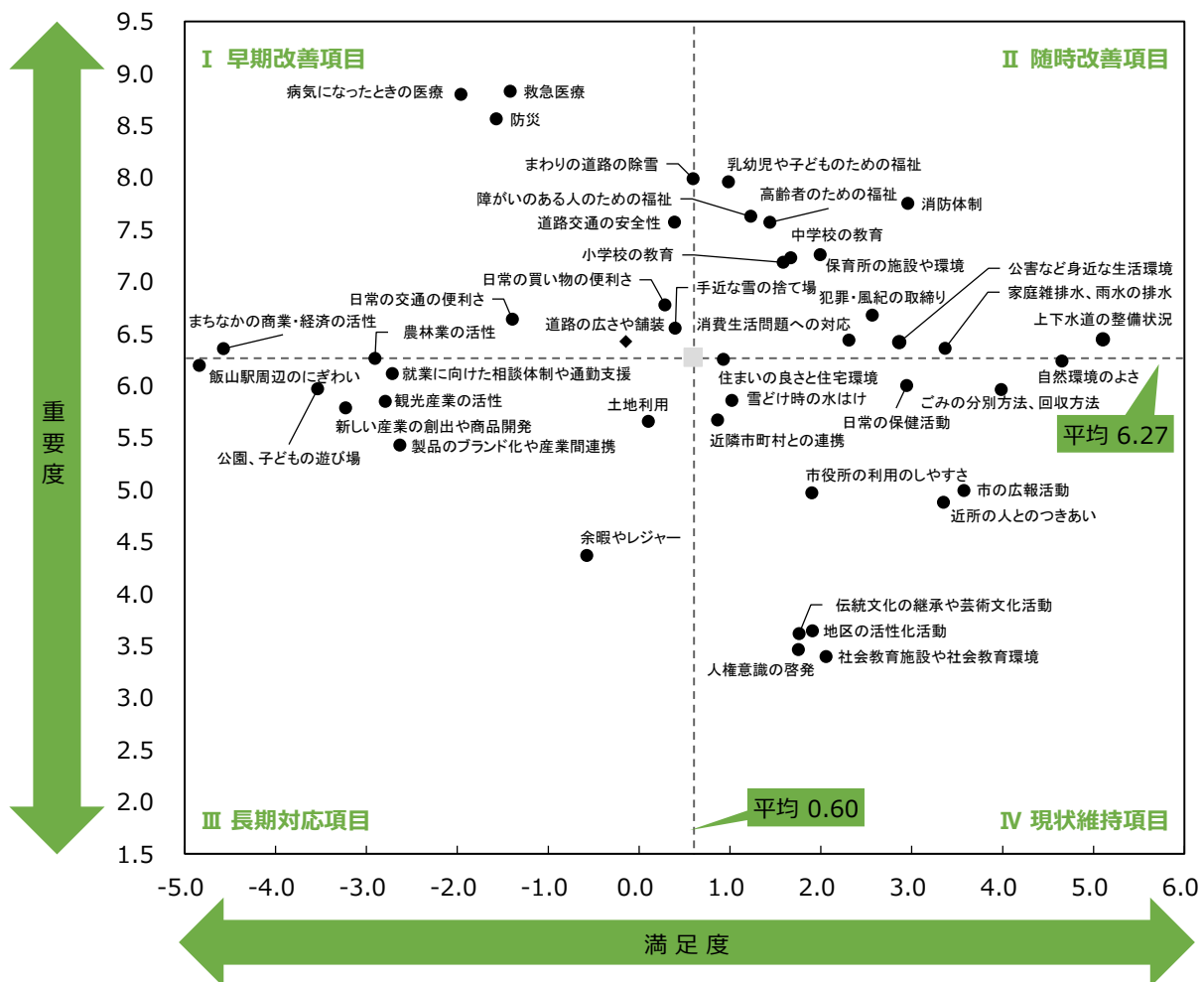
得点化した各項目は、散布図に示し、満足度・重要度の平均と比べて高いか低いかに
よって、4つの象限を設定し、取り組む優先度の高い順にⅠ～Ⅳとしています。

Ⅰ 早期改善項目：優先的に改善を望んでいる分野

Ⅱ 随時改善項目：現在の水準を維持、及び向上を望んでいる分野平均より低い

Ⅲ 長期対応項目：優先度は低いが改善を望んでいる分野

Ⅳ 現状維持項目：現在の水準の維持を望んでいる分野



- ・重要度も満足度も高い政策分野は、主に環境保全や福祉・教育です。
- ・重要度が高いものの満足度が低い政策分野は主に医療・道路・雪対策です。

【ミライ提案シート】

飯山市の“いいところ”は？
(文章、簡条書き、イラスト(絵)、…何でも自由にご記入ください)



自然・お寺、雪は..



13

5 飯山市の課題

社会の潮流、飯山市の現状及び第5次総合計画の施策の評価などから、5つの分野に分け、主な課題を整理します。

(1) 自然環境・移住定住・観光交流・新たな価値の創出

- ◆飯山市の美しい四季のある自然環境を守るとともに、その魅力を最大限活用し、飯山ならではの新たな価値を生み出すことが必要です。
- ◆デジタル技術の進化やライフスタイルの多様化により、都市部の企業においてはテレワークやワーケーション、プレジャーなど新しい働き方も注目されていることから、豊かな自然環境を生かし積極的な誘致や支援とともにニーズに合わせた環境整備が必要です。
- ◆市への関心や愛着の向上を図るとともに、定住人口、交流人口、関係人口の創出・拡大に向けた効果的な情報発信と戦略的なプロモーションが必要です。
- ◆新幹線飯山駅開業によるインバウンドへの波及効果は大きいため、更なる冬期誘客に努めるとともに、グリーン期においても外国人の関心度の高いコンテンツを充実することが必要です。
- ◆地方への移住希望の機運が高まっています。本市が選ばれる地域となるよう、多様化するニーズに合った支援や制度の整備が必要です。
- ◆地球温暖化による気候変動の影響は、当市にも猛暑・大雨・豪雪・寡雪等顕著に表れています。気候変動を緩和するため、再生可能エネルギーの活用や脱炭素社会への転換が強く求められているとともに、適応策を検討する必要があります。
- ◆市民の環境に対する興味や関心を高め、環境を学ぶ姿勢や豊かな自然環境を保全する住民主体の取組等を後押しする必要があります。
- ◆公共施設等の未利用施設の活用のほか、空き家や耕作放棄地などが周辺環境へ深刻な影響を及ぼしていることから、早期の対策が必要です。

(2) 子育て・教育

- ◆子育てを取り巻く社会環境や家庭環境など様々な環境の変化に対する各家庭の状況把握と改善に向けた支援が必要です。
- ◆妊娠・出産・子育てまで、一人ひとりの希望が叶うよう、切れ目のない支援が必要です。
- ◆基礎学力の確保に加え、問題の論点を整理し課題解決できる力を身に着ける環境整備が必要です。
- ◆ふるさとに誇りを持つとともに、地域の課題に向き合うことで地域の一員として地域づくりを行ったり地域を大切にしたりする心を培うため、ふるさとを学ぶ機会を提供することが必要です。
- ◆ICT 教育・プログラミング教育の推進や、国際化社会に対応するための外国語教育を含めた国際化教育の強化が必要です。

(3) 地域産業・雇用

- ◆市民アンケート調査では、飯山駅周辺の賑わいに関する満足度が低く、事業者や商業施

設等の誘致が求められています。

- ◆人口減少・高齢化により、経営者の後継者不足が深刻となっていることから、省力化や担い手の確保・育成が必要です。
- ◆地域経済を支える市内企業の育成や雇用の確保などの支援やデジタル技術の活用及び産業連携などによるイノベーションに向けた取組が必要です。
- ◆伝統文化の継承と産業の振興を図るため、後継者の確保や人材育成への支援が必要です。
- ◆ライフスタイルや価値観の多様化に応じた柔軟な働き方へ改革が求められています。

(4) 市民協働・生きがい・文化

- ◆若者の力をこれからの飯山の活力につなげられるよう、コミュニティの場づくりや新たな取組にチャレンジできる仕組みづくりが必要です。
- ◆市民一人ひとりが地域課題を自分事と捉え、課題解決に向けて自ら、または市民協働で取り組むことが必要です。
- ◆結婚希望者の成婚へつながる支援として、婚活イベント等の参加者の確保や出会いの場の提供だけでなく、結婚希望者の個別サポートが必要です。
- ◆飯山で生きがいをもって住み続けることができるよう、時代の変化に合わせた知識やスキルを習得できるなどリカレント教育（大人の学び）の場が必要です。
- ◆多様性を受け入れ、互いを尊重し、支え合いながら暮らせる地域づくりが必要です。
- ◆芸術文化の振興を図るため、市民が芸術文化に触れる機会の場を創出することが必要です。
- ◆市内にある文化財や歴史的景観を適正に保存し、後世に伝えていくことが必要です。
- ◆健康増進や体力向上を図るため、それぞれの年代で気軽に多種多様なスポーツを楽しむ環境づくりが必要です。

(5) 公共交通・医療・福祉・インフラ・防災・行財政

- ◆市民アンケート調査では、市民が願う市の将来像として「福祉・医療のゆきとどいたまち」が最も高いことから、地域の医療体制の検討及び地域中核医療機関の支援をはじめ、救急体制の確保や介護サービスの充実など、いつまでも安心して暮らせるよう一層の取組が求められています。
- ◆人口減少や少子高齢化により、地域のつながりが希薄になったり、コミュニティ活動が低下したりするなどの傾向があるため、地域福祉の担い手の確保をはじめ、地域で支え合う仕組みや行政のサポートが必要です。
- ◆集落と市街地を結ぶ移動手段、他の地域を結ぶ移動手段、飯山駅を起点とした二次交通など市民や来訪者の様々なニーズを踏まえ、効率的で利便性の高い公共交通網の形成が必要です。
- ◆道路、橋りょう、上下水道などのインフラ資産の老朽化への対応や強靱化を推進するため、限られた財源のなかで、計画的な施設整備が必要です。
- ◆流域治水や土砂災害対策を進めるとともに、ハザードマップの作成・周知等で災害時に避難場所への早期避難を促し、リスクを低減させる必要があります。
- ◆災害が激甚化・頻発化しているため、国や県をはじめ関係機関と連携を密にした防災体

制の構築や日々進化するテクノロジーの活用による災害予測や対応を図るとともに、自主防災組織を中心とした地域の助け合いなどの仕組みづくりが必要です。

- ◆市民サービスの向上を図るため、一層の財源確保に努めるとともに、事務事業の見直しや民間・都市間連携を進めるなど持続可能な行財政運営への取組が必要です。

6 第6次総合計画の方向性

全国的な人口減少・少子高齢化が急激に進行します。今後、生産年齢人口が減少するため地域経済の縮小による税収減や社会保障費の増加により行政サービス水準の維持が困難になるなどの影響が危惧されます。

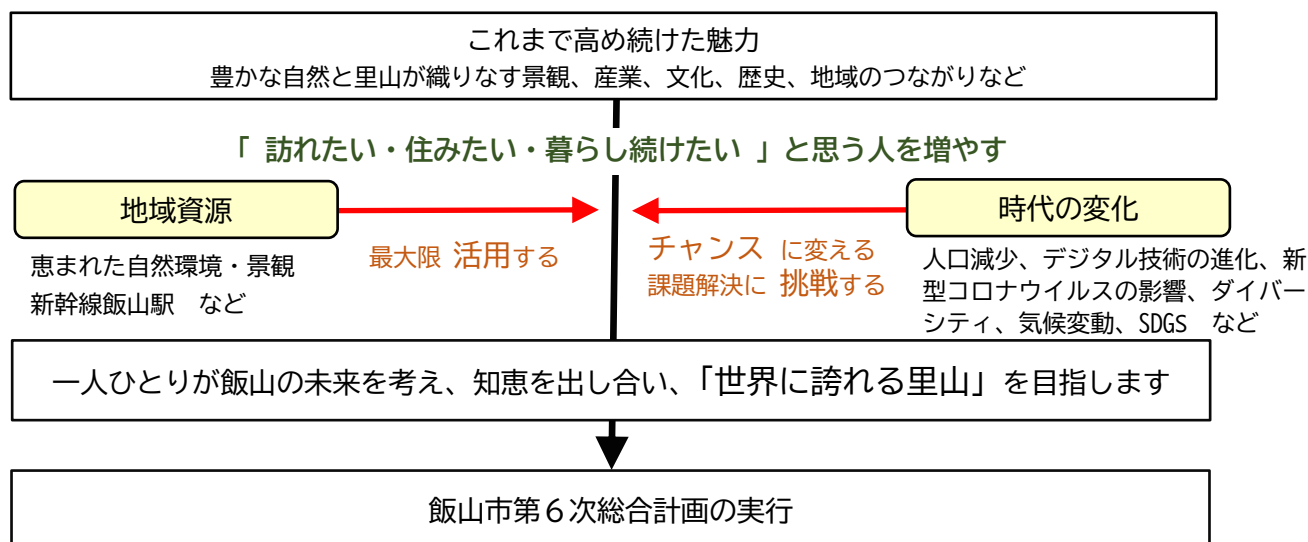
また、地域の担い手が不足し、これまでの集落活動が維持できなくなるなど地域コミュニティ機能の低下にも大きく影響します。

一方で、デジタル技術の急速な進化や働き方改革の推進など、社会情勢に大きな変化がみられるなか、新型コロナウイルス感染症のまん延を契機に、人々の暮らし方や働き方に関する価値観の大きな変化により、ライフスタイルの多様化や大都会の便利な暮らしから地方での豊かな暮らしを選ぶ時代となりました。

これまでの10年間、豊かで恵まれた自然環境の中で、その魅力を高めながら、新幹線飯山駅開業を契機に、子どもから高齢者まで住みやすく、安心やゆとりが実感できる「自然と共生した新たな価値創造の都市」を目指し、令和元年東日本台風による被災や新型コロナウイルス感染症のまん延による影響を受けながらも市民・団体・事業者・行政が一丸となり、まちづくりに取り組んできました。

飯山市の最大の魅力は、季節の移ろいが豊かな美しい自然環境と、この地の人の営みによって育まれてきた「里山」が、世界を誘う玄関口「新幹線飯山駅」を包み込むように広がっていることです。この、飯山ならではの「里山」が、30代の若者世代を中心に日本人だけでなく外国人をも移住先として惹きつける魅力となっています。

これからの10年間、飯山市のあらゆる地域資源を最大限に引き出すとともに、デジタル技術の急速な進化や新型コロナウイルス感染症の影響による人々のライフスタイルの変化など、時代の変化を的確に捉え、訪れたい・住みたい・暮らし続けたいと思われる「世界に誇れる里山」を目指し、一人ひとりが未来を考え知恵を出し合いながらまちづくりを進めます。



第2章 基本構想

1 将来のまちの姿

きょうそう 飯山郷創

～世界にひらく 里山の未来～

飯山郷創

このまちは、雪国ならではの恵みに育まれた豊穡の地と、そこに世界を誘う玄関口「北陸新幹線飯山駅」を有している^{ふるさと}郷です。これまで長い年月を経て、自然を守り、文化を生み出し、歴史を築き、地域固有の風土を形成してきました。

いま、時代の大きな転換期を迎え、変化を求められています。皆で知恵を出し合い、質の高い地域資源を活用して魅力的な^{ふるさと}郷を^{つく}創ります。

世界にひらく

このまちは、誇りある^{ふるさと}郷として、世界に「飯山市」を発信します。そして、多様性を認め合い、「訪れたい」「住みたい」「暮らし続けたい」と思う人を増やし、交流と定住の促進につなげます。

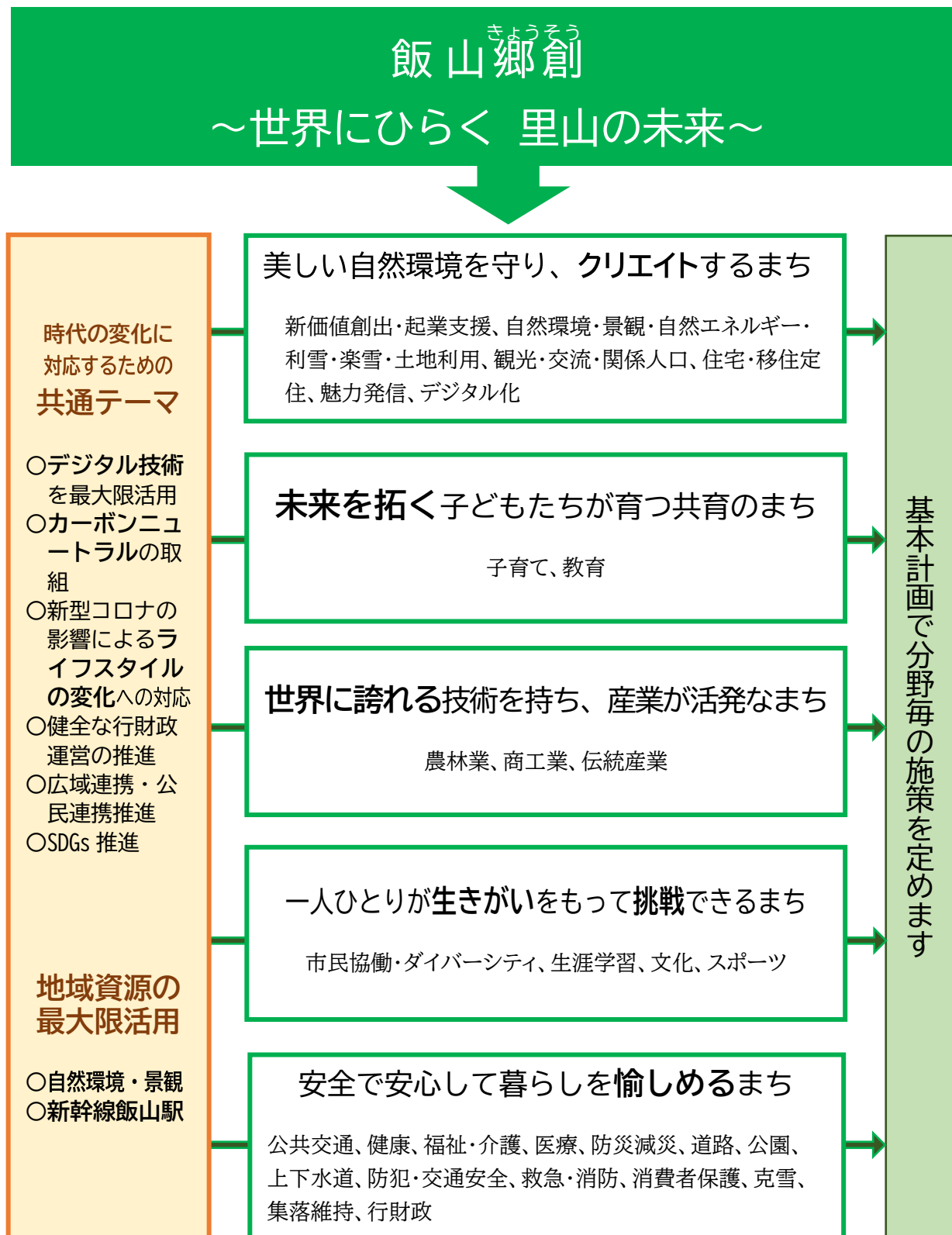
里山の未来

このまちは、季節の移ろいが豊かで美しい自然が広がる「里山」です。

一人ひとりが、里山の価値を見つけ出し、この里山の未来を創り出す、「クリエイティブな里山」を目指します。

2 基本目標

「将来のまちの姿」の実現を目指すため、各行政分野のありたい姿を5つの基本目標として定めます。



3 基本目標毎の取組

基本目標1 美しい自然環境を守り、クリエイトするまち

- 飯山市の地域資源を磨くとともにその魅力を最大限引き出し、発想の転換による創出・再生・連携等、新たな時代に挑むことで価値を生み出し、先端産業の展開や多様なライフスタイルが実現できるまちを目指します。
- 季節の移ろいの豊かさを感じる美しい自然環境を守り、まちの魅力を世界に発信し、飯山市ファンの増加、移住定住につなげていきます。
- 2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、再生可能エネルギーの導入等によるエネルギーの地産地消と、省エネ技術の導入等に取り組んでいきます。

<行政分野>

新価値創出・起業支援、自然環境・景観・自然エネルギー・利雪・楽雪・土地利用、観光・交流・関係人口、住宅・移住定住、魅力発信、デジタル化



基本目標2 未来を拓く子どもたちが育つ共育のまち

- 「飯山市で子どもを産み育てたい」と思うような、妊娠、出産、子育ての希望を叶えられる子育て世代への支援を推進します。
- 確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む教育を進め、情報、外国語、科学技術、環境、スポーツ等、夢と希望を育み、新たな時代に対応して未来を拓く力をつける学校教育を推進します。
- 家庭、地域、事業者が連携・協働による子育て支援や、まち全体を学びの場とした「日本に誇れる子育て環境のまち」を目指します。

<行政分野>

子育て、教育



基本目標3 世界に誇れる技術を持ち、産業が活発なまち

- 産業のスマート化を促進するとともに時代に応じた農業・商工業の活性化を図り、世界に誇れる多様で活発な経済活動を生み出すまちを目指します。
- 飯山市が誇る伝統産業の継承や時代に対応したイノベーションを支援します。
- 多様で柔軟な働き方への支援や飯山市への就労促進を図り、産業の担い手や後継者を確保します。

<行政分野>

農林業、商工業、伝統産業



基本目標4 一人ひとりが生きがいをもって挑戦できるまち

- 年齢や性別、国籍、人種、障がいの有無、性的指向・性自認等に関わらず、誰もが個性や能力を発揮し活躍できるまちづくりを進めます。
- 市民・団体・事業者などがアイデアを出し合いながら協働で進めるまちづくり活動を支援します。
- 学習やスポーツ、文化・芸術活動に生涯取り組むことができる環境づくりを進め、生きがいづくりや挑戦を応援し、一人ひとりの夢や希望が叶えられるまちを目指します。
- 市内にある有形無形の文化財及び文化的景観の保存や活用を図るとともに、その魅力を世界に発信します。
- 新型コロナウイルス感染症の影響やデジタルスキルなど、これからの時代に対応した技能を身につけ、豊かなライフスタイルを実現するため、リカレント教育を推進します。

<行政分野>

市民協働・ダイバーシティ、生涯学習、文化、スポーツ



基本目標5 安全で安心して暮らしを愉しめるまち

- 持続可能な都市構造と効率的な公共交通体系により、多極ネットワーク型コンパクトシティを構築し、生活環境の維持・向上を図ります。
- 過去の災害の教訓を活かし、将来のリスクを想定するとともにデジタル技術を活用した防災・減災対策とインフラ整備を推進し、快適なまちを目指します。
- 市民が健やかに暮らせるよう、医療体制、健康づくりや支え合いによる地域福祉の充実及び各福祉サービスの推進を図ります。
- 市民が暮らしを愉しみ、いつまでも暮らし続けたいと思えるよう、時代に対応した集落のあり方を早急に検討します。
- 市民・団体・事業者と共に歩む行政の推進、健全な財政の維持を図ります。

<行政分野>

公共交通、健康、福祉・介護、医療、防災減災、道路、公園、上下水道、防犯・交通安全、救急・消防、消費者保護、克雪、集落維持、行財政



資料

用語集

【五十音順】

アクティビティ

活動、体を使った遊び。観光分野では、日帰り旅行・外遊び・アウトドアスポーツなどを通して、体の一部を利用して楽しんだり、ネット上で学んだりする活動のこと。

新たな時代に挑む

人口減少、デジタル技術の進化、コロナウイルスの影響によるライフスタイルの変化などの時代の変化に対して、課題解決に向けて果敢に挑戦し、まちの魅力を高めたり、飯山のブランド化につなげたりすること。

インバウンド

外国人が訪れてくる旅行のこと。

関係人口

移住してきた「定住人口」でも、観光にきた「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。

共育のまち

この計画では、子どもが成長に必要なことを学ぶだけでなく、子どもと接している親も一緒に学び、成長すること、さらに、多様な立場や領域の人や組織が連携して教育を担うこと、地域が教育を担うこと。

クリエイティブ

創造的な、創作的な、独創的な、工夫して作る、編み出される、などのこと。

クリエイトするまち

地域資源を活用し、飯山ならではの創造的、創作的、独創的なまちづくりを進めること。

交流人口

通勤・通学、文化、スポーツ、買物、観光などによって、その地域に訪れる人々のこと。

コミュニティ

居住地域を同じくし、利害をともにする共同社会。生産・自治・風俗・習慣などで深い結びつきをもつ共同体のこと。

コンテンツ

元々の意味は内容、中身のことで、観光分野では幅広い定義として、宿泊施設、観光地、アクティビティ、グルメのこと。

再生可能エネルギー

太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱など、自然界に存在し、永続的な利用が可能と考えられるエネルギーのこと。

里山

一般には、人里近くにある、生活に結びついた山や森林のことをいうが、この計画では、世界から見て、恵まれている自然環境があり、自然と人が共生している飯山市全体のこと。

新価値創出

今までの常識を覆すような革新的なアイデア・価値観で、今までに例のない新しいビジネスを創出すること。

スマート化

ロボット技術や情報通信技術（ICT = Information and Communication Technology）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現すること。

先端産業

先端技術を活用・駆使する産業分野のこと。

ダイバーシティ

集団において年齢、性別、人種、宗教、趣味嗜好などさまざまな属性の人が集まった状態のこと。

多極ネットワーク型コンパクトシティ

将来にわたって都市機能を維持・集約する「拠点」、公共交通と道路のネットワークによって広域間及び拠点間を結びつける「連携軸」、土地利用の骨格区分となる「区域」を設定し、中心拠点と周辺集落がしっかり結ばれるようにすること。

脱炭素社会

地球温暖化対策のため、二酸化炭素の排出を低減していく社会のこと。

適応策

渇水対策、熱中症予防、感染症対策、農作物の高温障害対策、生態系保全など、気候変動による悪影響への備えを行い、新しい気候条件を利用すること。

デジタル技術

現実世界の「ものごと」や「できごと」をコンピュータで扱える形（デジタル）で表現し直し（デジタル化）、活用する技術のこと。

デバイス

パソコン・タブレット・スマートフォンや、それらと接続して使う装置の総称のこと。

テレワーク

Tele（離れて）と Work（仕事）を組み合わせた造語。ICT を活用した時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方のこと。

ハザードマップ

地域住民などが迅速・安全に避難するために、災害危険箇所や避難場所などの情報を明示した地図のこと。

ブレジャー

Business（ビジネス）と Leisure（レジャー）を組み合わせた造語。出張等の機会を活用し、出張先等で滞在を延長するなどして余暇を楽しむこと。

プロモーション

この計画では、地方自治体によって行われる、地域のイメージを向上させるために行われる活動の総称のこと。

ライフスタイルの変化・多様化

事業所へ出社するスタイルだけでなくテレワークするスタイル、一か所での居住だけでなく多地域居住や特定の居住地を持たないスタイルなど、個人の生活様式（ライフスタイル・営み方）が、時代の潮流により変化・多様化すること。

リカレント教育

学校教育から一旦離れた後も、それぞれのタイミングで学び直し、仕事で求められる能力を磨き続けていくことがますます重要になっており、このための大人の学びのこと。

ワーケーション

Work(仕事)と Vacation(休暇)を組み合わせた造語で、余暇主体と仕事主体の2つのパターンがあり、いずれもテレワーク等を活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごすこと。

【英数字】

DX (ディーエックス)

Digital Transformation (デジタル・トランスフォーメーション) の略。進化したデジタル技術の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。

ICT (アイシーティー)

Information and Communication Technology の略。情報通信技術のこと。

Ma a S (マース)

Mobility as a Service の略。スマホアプリにより、地域住民や旅行者一人ひとりの移動ニーズに対応して複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括して行うサービスのこと。

SDGs (エスディージーズ)

Sustainable Development Goals の略。2015 年9月の国連サミットで採択された、17のゴール、169のターゲットで構成されている「国際社会における 2030 年までの開発目標」のこと。

STEAM教育 (スチームきょういく)

Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学・ものづくり)、Art (芸術・リベラルアーツ)、Mathematics (数学) の5つの単語の頭文字を組み合わせた教育概念のこと。

STEM教育 (ステムきょういく)

Science (科学)、Technology (技術)、

Engineering (工学・ものづくり)、Mathematics (数学) の4つの単語の頭文字を組み合わせた教育概念のこと。

2050 年カーボンニュートラル

2050 年までに、温室効果ガス(二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンガス)の排出を全体としてゼロにする(排出量から吸収量と除去量を差し引いた合計をゼロにする)こと。